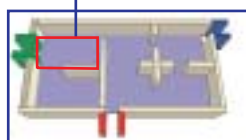
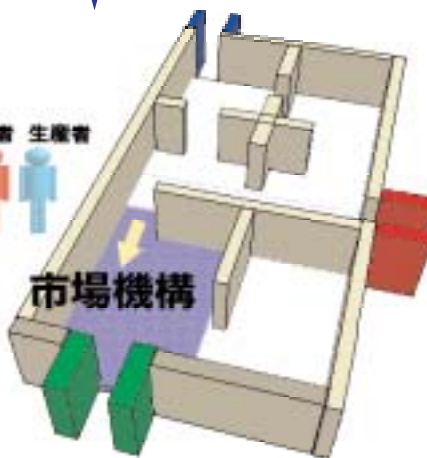


市場機構



消費者 生産者



消費者、生産者についての各論の次は、ここで、余剰分析を用いて、**最も望ましい厚生基準**（最適資源配分）の実現について観察する。

最適資源配分

厚生基準としての総余剰は消費者余剰と生産者余剰の和で示される。

消費者余剰
生産者余剰

消費者余剰は消費者がある財を購入しないで済ますよりは購入する方がよいと思って支払う最大限の価格が実際の価格を超える超過部分であり、三角形ABP*で表わされる。また、生産者余剰は収入のうち費用を超える超過分、すなわち、超過利潤であり、三角形BCP*で表わされる。

競争市場において、需要曲線と供給曲線が下図のように示されると、均衡価格は p^* 、均衡需給量は X^* で決定されるので、総余剰は以下のようになる。

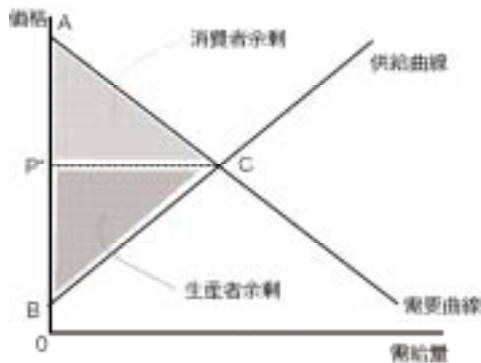
$$\text{消費者余剰 (ACP*)} + \text{生産者余剰 (BCP*)} = \text{総余剰 (ABC)}$$

部分均衡分析では、総余剰の面積の大きさが経済厚生基準となり、競争市場においては総余剰が最大化し、最適性定理がみだせれる。

最適性定理

このような競争市場が望ましい市場であり、政策上の論拠となる。

例えば、政策上の「材料表示義務」や「規格の設定」など競争を促す政策が存在しているのは、そのためである。



市場経済
どのような市場が最も消費者にとっても生産者にとっても望ましいだろうか？ここでは、そうした社会厚生立場から市場機構を観察し、競争市場の妥当性を立証する。

競争市場
競争市場では、消費者も生産者も自己の利益が最大になるように行動する。例えば、生産者（企業）は、独占販売などが存在しなく、利益があげられる市場に自由に参入・退出が可能となる。